

# 新城市議会傍聴記

地方政治  
クリエイト  
伊藤 秀昭

5月31日に投票された新庁舎建設設計画の是非を問う住民投票で、市民は市の現計画でなく、規模縮小などを図る選択肢を選んだ。

この結果を受けて市長や議会は、今後はこのように庁舎問題を進めていくのかと問われている。

## 住民投票を受け、激しい議論

18日からの一般質問は、多くの市民が傍聴し、ガチンコ議会となった。

◎議会は政争に

柴田賢治郎氏は住民投票条例の議員提出の仕方を問題にした。

4人の共同代表で提案された住民投票条例が、途中、2名

市長は「住民投票の結果には、将来の生活不安が背後にある。人心、民意を離れて庁舎建設はありえない。足元を見つめ直し、最善の道を選んでいく」と意欲を示した。

さらに山崎氏は「時の民意が正しいとは限らない。市道

◎説明責任

白井倫啓氏は「新庁舎建設について説明責任を果たしたと言えるのか。住民投票は公平・公正に行われたのか」と市長に迫った。

市長は反問権も行使して「短期間に9200名の署名を集めた住民投票を求め

◎産廃問題

産廃業者の進出問題について対策会議で審議した質問内容を改訂して、タナカ

「議会発議により行われたまちづくり

◎まちづくり集会

市民まちづくり集会は公平公正に行われたのかと問題提起したのは加藤芳夫氏。

「議会発議により行われたまちづくり

◎認知症対策

鈴木真澄氏は新城中には一人暮らし世帯は4260世帯あり、介護保険加入者の中で介護認定され

幅な規模縮小3階建て30億円を堅持していくよう求め、飯田市の庁舎建設経過を例に地元業者の活用を要請した。



◎観光戦略

打桐厚史氏は観光資源を十分に活用した戦略と新たな観光スポットについて質問し、12年3月の三遠南信自動車道の鳳来峡インターチェンジ(IC)開通により、入込数は14万人増となった経過を踏まえ、新城IC開設のこの時を生かし、壮大な取り組みで新城を元気にしようとする持論を展開した。

の対応を行政側に求めるのは本末転倒していないか。

◎反穂積運動

山崎祐一氏は「住民投票の結果を真摯に尊重する」とした上で、「住民投票の結果には一昨年の市長選挙以来続く反穂積運動の側面もある」と指摘した。

東新町桜淵線を残せば、危険が増す。東庁舎を残せば費用負担が増大し、合理性や効率性を欠く。本

る会から議会との仲介を求められ、共同提案に動いた」と、白井氏は「署名の重みを受け止め、庁舎建設の見直しを求めた」とする立場は平行線のまま終始した。

白井氏は「求める会が求めているのかわかりにくい選択任」とした。

興業に質問していたことを取り上げたのは山口洋一氏。環境部長は「反対運動がある以上、回答しないとするとタナカ興業から回答を引き出し、次のステップに進むために改訂した」と答弁したが、山口氏はそれでもなお、具体的な説明が

集会は、市と議会の共催の形となり、公平中立に行われた」とする答弁に、「選挙運動の説明や市民からの質問の回答は不十分であり、怒号まで飛び交った。あまりにも作作的でなかったか」と指摘した。

◎推計と実績  
菊地勝昭氏は総合計画の年度別財政推計と決算カードによ

る実績に乖離(かいり)があり、財政規模が大きくなることによる効果を聞いて新城市の財政について議論し、「新城市は積極財政で攻めていくのが大事でないか」と迫った。総務部長は「健全財政に徹して、取り組んでいく」とした。